

以前会報読者から頂いたアドバイスを読み直しています。

ご指摘は「会員数が多く、組織として確立した会の会報であれば、『今月はどんなことがあり、来月はこんなことをします』そんな記事でいいが、しかし、当会は会員数も少なく、組織として確立もしていない。そのような会の現在の会報内容で「語り継ぐ会」への興味を持たせることができるのか、疑問に思う。もっと話題提供があり、熱く会の意思を訴える会報のほうが興味を持たす事ができるのではないか。」との内容でした。

ご指摘のとおりであり、心を込めて、さらに多くのことを語らねばと感じている今日このごろです。(馬淵)

高槻市マスコットキャラクター  
『はにたん』



## ■高碕翁の好物「じゃこまめ」を試食する

我が会の例会(8/22)で高槻三島江田中商店の「じゃこまめ」をいただきました。

名誉市民の高碕翁は「じゃこまめ」を好物としていました。最近では作られるところも少なくなっているそうです。

じゃこまめは鮎とかモロコをとってそれを焼いて、それに秋にあぜ道でとれる大豆をほして、じゃっかい(川魚)と一緒に炊いたものです。そのやり方は各家それぞれ違ったそうです。

田中商店のご主人のお母様は高碕家に12才からご奉公なさり、高碕翁とは雲雀丘・満洲へと一緒に行かれ、高碕翁の葬儀にも出席なさったそうです。



“高碕翁の懐かしの味『柱本のじゃこまめ』を名産品にしてはどうでしょうか……”

## ■8/20 読売新聞の夕刊に

### 高碕翁の話が掲載される

この記事は「マチタビ雲雀丘」に載っていたものです。

雲雀丘の「高碕記念館」は、1923年にウィリアム・M・ヴォーリズの設計により建築され、1929年(昭和4年)より東洋製缶の創立者である高碕達之助の住居として使用されていたものです。

ここで、当時自然や生き物を愛した高碕達之助は、ワニやニシキヘビなどの爬虫類から小鳥にいたるまで、多くの生き物を飼育していました。庭も素晴らしく春には「荘川桜」も咲きます。



高槻の名誉市民でありながら高槻に記念館がないのは残念ですね。

## ■高槻市民団体「シニア 100 ネット高槻」で

### 高槻名誉市民に関し講演会開催

講演会一部は「初代市長 磯村弥右衛門の偉業」で淀川大洪水の大塚切れの体験から生涯の活躍の場を地方政治に求めた磯村翁のお話で、高槻市発展の礎を築いた先人の偉業を振り返ります。二部は「人間の幸福を願った高碕達之助」で高槻市が生んだ優れた企業家・政治家として、その生い立ち、その時代背景を通し、高碕翁の人となりを振り返ります。“高槻にこんな素晴らしい人がいてたんやで!!”

開催日は9/5(月) 9/13(火) 9/21(水)。(詳しくはシニア100ネット高槻HPで)

## ■高碕翁発案の幻の缶詰「たかさき煮」(例会から)

この缶詰は昭和35年ぐらいに計画されたが、世の中には出なかったようです。

中身は米国カリフォルニア沖のマグロに、昆布(ソ連が不法占拠している北方領土)を、日本の醤油と砂糖で味付けしたもので、一つのパッケージの中で一緒にする事で、冷戦は早く終わらせろとの意味を持たせたものだったそうです。



## ■例会のお知らせ

9/26(月)「展示会講演会に向けて」

出席者全員

\*第一週の例会はシニア会に振替。

【語り継ぐ会連絡先】

馬淵晴彦

携帯：080-3102-4104

FAX:072-689-3674

